

先輩職員たちの声

京都のまちづくりを支える、京都市職員からのメッセージ

Message

採用WEBで「先輩職員の声」も随時更新中！インタビュー動画もぜひ御覧ください！詳しくは▶



地域の方と力を合わせ
京都西山エリアの魅力を発信

京都市役所洛西支所地域力推進室
吉田 有里加 Yoshida Yurika 令和5年度採用

洛西地域・向日市・長岡京市・大山崎町が連携した京都西山の魅力発信やイベントの実施、担当区長懇談会や市政懇談会などの運営、交通安全を推進するための啓発活動の実施、市民憲章や自治記念式典の推薦書の取りまとめなど、幅広い業務を担当しています。現在の業務の魅力は地域の方と一緒に取り組めることです。普段から地域の方とコミュニケーションを取る機会が多い部署ですが、「京都西山スタンプラリー」を企画した際、地域のお店や寺社にリリースポイントになっていただき、地域の方と一緒にイベントを盛り上げられたことは、特に印象に残っています。これからさらに経験を重ね、地域の方に頼られる存在になりたいです。



新たな店舗が開業を迎えた日の
達成感は格別

交通局企画総務部営業推進課
高島 聡汰 Takashi Sota 令和2年度採用

京都市営地下鉄の構内にある駅ナカ商業施設「Kotochika」の店舗管理や誘致を主に担当しています。新たな店舗を誘致する際には、公募に向けて各業界のトレンドなどの情報収集が必要不可欠であり、店舗決定後には、開業に向けた施工業者や局内の技術部門との調整で多くの専門的な知識が必要となります。関係者との日々の連絡・調整やそのための勉強が大変に感じる時もありますが、無事に開業の日を迎え、生き生きとした店舗スタッフの方や嬉しなお客様の様子を見ると、これまでの苦労が全て吹き飛ばすほどの達成感でいっぱいになります。多種多様な市役所の業務の中でも、特に成果がよく見えるこの業務に、非常にやりがいを感じています。



社会基盤整備を通して
京都をもっと安心安全なまちに

建設局道路建設部道路建設課
松尾 知弥 Matsue Tomoya 平成31年度採用

より安全で快適な道路を整備するため、道路拡幅工事の設計・積算業務や関係機関との調整を行っています。「道路がより快適に利用できるようになった」と市民の方から感謝の言葉をいただいたとき、この仕事のやりがいを感じます。また、災害復旧工事を担当した際、先輩や上司と連携しながら、土砂崩れの緊急対応から災害復旧の完了までやり切ったときの達成感は今も忘れられません。公共土木施設に係る社会基盤整備は道路、河川、橋りょう、公園など多岐にわたります。これまでは主に道路事業に携わっていましたが、他分野でも経験を積み、京都市の安心安全なまちづくりに貢献していきたいです。



設計から施工まで
下水道工事にトータルに関わる

下水道局きた下水道管路管理センター
中西 真子 Nakanishi Makiko 平成30年度採用

老朽化した公共下水道管や水路などの改良工事、浸水対策工事、道路陥没などの緊急対応工事に携わっています。具体的には現地調査や測量を行い、その結果を元に図面を作成し、現場状況に応じた工事費を積算します。施工業者に発注後は、工事が安全に進み、図面どおりに遂行できているか監督を行います。このように設計から工事までの全業務を担当でき、またそれが形になることで、市民の方が安全に暮らせる手助けができることにやりがいを感じます。以前は開発担当として許認可業務を行っていましたが、同じ下水道部内でも業務に対する考え方や捉え方が異なるため、視野が広がり、より知識が深まることに魅力を感じています。



市立高校の生徒たちの学びを
多様な面から支える

教育委員会事務局指導部学校指導課
谷内 亨輔 Kanuchi Kyosuke 令和4年度採用

「一人ひとりの子どもを徹底的に大切に」という京都市の教育理念の下、全10校ある市立高校がそれぞれの特色・魅力をいかした教育活動を展開し、社会の様々な分野で活躍できる生徒を育成することができますよう、グローバル教育や伝統文化体験に関する事業の企画・運営、ICT機器などの整備、教育内容への指導助言などを行っています。今までの業務で一番印象に残っているのは、令和5年度に誕生した開建高等学校の開校式に携わったことです。開校に至るまでの企画・調整や当日の運営については苦労も多々ありましたが、希望に満ち溢れた生徒の皆さんの顔を見て、開校という新たな門出に立ち会えたことに大きなやりがいを感じました。



一人ひとりに寄り添い
市民生活をバックアップ

山科区役所保健福祉センター健康福祉部障害保健福祉課
柿原 真綾 Kakuka Maaya 令和3年度採用

身体障害・知的障害の方の生活や暮らしを支えるケースワーカーとして、窓口や電話で、市民の方や障害福祉サービス事業所から寄せられる相談に応じています。相談者の自宅や事業所を訪問することもあり、関係機関と連携しながら相談者一人ひとりにとって必要な障害福祉サービスの利用につなぐ支援をしています。最初の頃は制度を覚えるだけで手一杯でしたが、経験を積み重ね、今では自分で支援を組み立てることもできるようになりました。福祉の仕事は市民生活に身近なため、「市民の方を支えている」ということをより実感できる分野だと思います。多くの方の生活や暮らしがより良くなるよう、今後も市民目線に立つことを忘れず、的確で丁寧な対応を心がけていきたいです。



誰もが住みたいと思う京都を
現場の第一線から支える

建設局北部土木みどり事務所
隅田 裕樹 Sumida Yuki 令和3年度採用

地域の方からの要望を受け、主に道路や河川、公園などの公共土木施設の直営補修を行っています。また、災害発生時には倒木や土砂を撤去するなど、現場の第一線で活動しています。仕事は屋外作業が中心であるため、体力的に大変なこともありますが、自分たちが補修し整備された現場を見ると、自分の仕事が地域の方にとって大切な役割を担っているの目に見えて実感できるため、とてもやりがいを感じます。また、直営で補修を行うため様々な土木機械や重機を扱え、ほかでは経験できない業務に取り組めるのも土木保全の魅力だと思います。今後も市民生活に直結する公共土木施設をより良くし、訪れた人が住んでみたいと思えるような京都市にしていきたいです。



ポテンシャルを秘めた空き家
そのイメージ転換に挑む

都市計画局住宅室住宅政策課
渡邊 春葉 Watanabe Haruna 平成30年度採用

京都市には、市場に流通していない空き家がたくさんあり、それらをどう活用させていくかが大きな課題です。そのため、空き家対策として、管理不全空き家の適正指導や、空き家の発生予防、活用・流通の促進などを行っており、その中で私は、活用・流通に関する事業の企画・運営などを担当しています。空き家は困りごととして捉えられがちですが、様々なポテンシャルを秘めたまちの資源です。現在、民間企業や地域の方々や連携しながら空き家の利活用に向けた事業を進めています。空き家に対するイメージを転換し、住まいや暮らし方の選択肢を増やし、活用の機運を高めていくのは行政の役割であり、やりがいを感じています。